

余裕の初優勝

3個目の「九州」タイトル

《第31回九州ミッドシニア選手権》

パープレー 72

榎 隆則（65歳、大分中央）



競馬に例えて申し訳ないが、大本命の1番人気ファンの声援に応え、余裕を持って1着でフィニッシュしたようなものだった。2016年の日本シニアを制し、22、23年と九州シニアを連覇、九州ミッドアマも2位が2回と数々の栄冠と仲良くしている榎が65歳を迎えた今年からミッドシニアに参戦。この部門では新人ではあるが、その実力は誰もが認める場所。大方の予想を裏切ることなく、あっさりと優勝をさらった。「ルーキーだから謙虚に、とは思ってい

たけど、調子も良かったし（優勝を）意識はしていた。ショットが良かった。キレキレのショットでした」と唯一人のパープレーに自画自賛である。

本来の競技は2日間、36ホールストロークプレーだが、台風10号の接近により18ホールストロークプレーに変更。1日競技が正式に決定したのは午前11時30分。その時間は全ての選手がスタートしていた。開始前から榎は「多分、1日競技になるだろう。なるべく叩かないように慎重なプレー」を心掛けたという。14ホール中、半分近くを3Wでティーショットし、フェアウエーを外したのは3回だけ。パーオンを逃したのも2度だけという安定感だった。3ボギー（3バーディー）のうち2つは3パットだから、ショットは見事だった。

大会コースのグランドチャンピオンGCでは6度の練習ラウンドを実施し、オーバーパーは1度もなかった。自信を持って臨んだ試合でもあった。大きな変化はグリップでの指圧の掛け方。それまでは左手小指で強く握っていたのを小指80、薬指70、中指60の割合で以前より軽めに締めるようにしたところ、俄然ショットが良くなったという。「それまでフェード系だったが、つかまるようになった。ドローというよりストレート。飛距離も伸びた。指にセンサーがある感じかな」と好感触を得た。ドライバーの飛距離が260ヤードに、アイアンも5~10ヤード飛ぶようになった。

最近の自分のゴルフを表して「一段階上がっている」と榎は胸を張る。それは技術の裏付けがあるからだろう。秋に門司GCで開催される日本ミッドシニアに対しては「意識している。欲はある」とただ一点の目標を見据える。